'72 11
No. 6
昭和47年11月1日発行
発行　横越村役場

広報 よこごし

おもな内容

1.水道バイパス着工（P1）
2.広域市町村圏の設立（P1）
3.教育委員長決る（P2）
4.秋期火災予防週間（P3）
5.百年の天寿を迎える小学校（P3）
6.横越下部落があすの住民活動賞を受賞（P4）
7.新年特集号の記事募集（P4）

晩秋

時雨るゝや暮色がつゝむ残り柿　佐藤志残
古臼に小菊を植えて六十近し　今井天花
胡桃落つ音のにぶさよ今朝の秋　阿部雄峰
秋草に瞬時の入日はなやぎぬ　安達峯雪
翌年に備え菊苗挿し憩う　東城素秋

（県下俳句大会玉選集より）

横雲抄

菊花香る十一月

文化の日を中心にいろいろ、文化関係の行事が持たれ文化の月といってもいい月です。

菊は嶺ともかかれ、嶺は峯と同じで事物の窮極、最終を意味し花のうちで一年のいちばん終りに咲くところから名ずけられたといわれます。千年位前唐から渡来したが、古来長寿の花といわれ、又薬用としても用いられており、長寿と関係がある花だそうです。

古今和歌集に

露ながら折りてかざさむ菊の花、老いせぬ秋のひさしかるべく。

とありました。

その後栽培技術の発達により絢爛豪華な花を咲かせるようになり、各地にはなばなしい菊花展が開催されるようになりました。横越でも公民館はじめ各地で開催され、愛好家もたくさんいます。

菊の種類は日本で十七種中国で十五種、ヨーロッパで一種といわれており、やはり日本の花というべきでしょう。

秋の田んぼ道では、すでに夏草が枯れた中に、うす紫の野菊の花がひっそりと咲いています。その風情もまた格別です。

横越村にも野菊の花のようにそれぞれの文化の道を歩いていられる方々がたくさんいます。文化とは何かなどというとむずかしくなりますが、俳句、短歌、書道、絵画、民謡、踊、音楽、合唱、写真等々、興味をもってその道にはげんでいられる方々が多い。

そういう花をだんだんと咲かせていくように愛好者をつのってグループをつくり、横越村の文化活動が一段と活潑になっていくように期待しています。

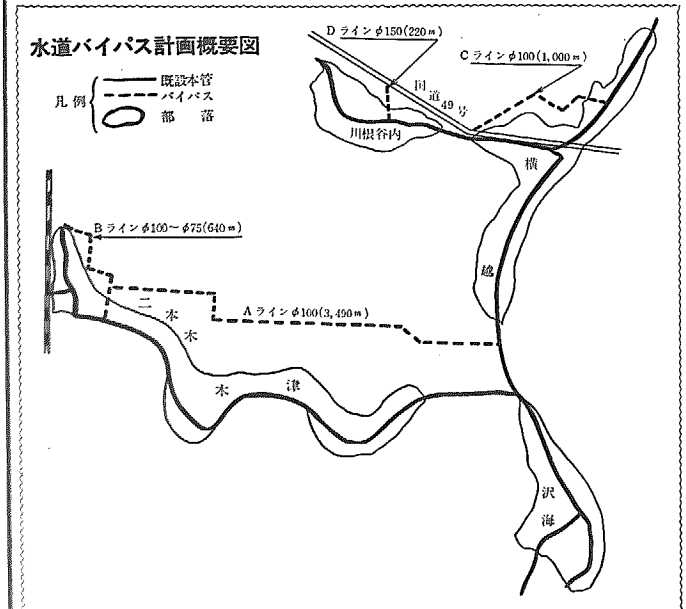
（田中）

水道バイパス今秋着工

水不足と将来にそなえ
四線延長五千四百米

村の水道によるホの需用量は、生活の近代化とともに増大し、加えて工業等の進出で二本木地区は数年来水量不足の不便をきたしていた実状です。また都市計画の宅地造成の進展状況等から、今後大巾な需用も予想されることもあって、村ではこのたび水量不足の解消と、将来の需用増に備えて、A、B、C、Dラインの四線総延長五千三百五十米、総事業費千七百万円で水道バイパスを布設することになりました。

布設工事は、今年十一月中旬頃から始め翌年三月末までの不便をきたしていた実状です。また都市計画の宅地造成の進展状況等から、今後大巾な需用も予想されることもあって、村ではこのたび水量不足の解消と、将来の需用増に備えて、A、B、C、Dラインの四線総延長五千三百五十米、総事業費千七百万円で水道バイパスを布設することになりました。



水道事業新潟市と企業合同の方向へ

いままで新津市が横越地内に浄水場の建設を決めたのを機会に、新津市との売水形式から、新潟市の水道局と企業合同し、新潟市の給水区域に編入して給水をうけることが、将来のためがなく、年々ふえる水の需用には、現有施設では対応しきれない状況であることから、昨年新潟市当局へ陳情した結果、新潟市当局からは、横越村と企業合同を進めることで原則的な了解が得られました。

したがって企業合同による様々な問題点等は、今後具体的に双方の間でつめながら進めることになっていますが今のところ企業合同は昭和五十年度以降の公算です。

広域協の審議委員に三氏を選出

新潟地域広域市町村圏協議会では、協議会の事業計画等について巾広い立場から検討するため、諮問機関として審議会をおき、加盟市町村の議会議長を含めた学識経験者等三名を、審議会委員にあてることになっています。

審議会では去る九月二十一日の臨時議会終了後、新潟協議会を開いて次の三名を審議会委員に選出しました。

佐藤　藤男氏（議長）
石倉　八一氏（議員）
佐藤栄太郎氏　（〃）